

福井県勝山市へ

ようこそ！

教科書に載ってないからまとめてみた

白山平泉寺の歴史編

平泉寺は全国にある
白山神社のはじまり

平泉寺は七一七年に泰澄が白山に登ろうとして開いた所。池のかたわらで祈っていると、白山の女神が現れた。この池は「平清池」で「平泉」と呼ばれここを中心に修行者のための宿坊、白山を拜する拝殿や寺院が建ち並び発展した。のちに「平泉寺」と呼ばれるようになり、いつしか音読みに。

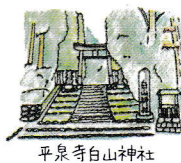
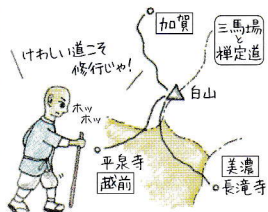
加賀(石川)県、や美濃(岐阜)県からも白山へ登る修行の道「禪定道」が開かれた。

平泉寺は中世の

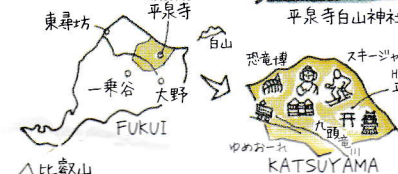
一大宗教都市だった

中世・鎌倉・室町時代頃

一〇八四年、比叡山延暦寺の末寺になったのをきつ



平泉寺白山神社



かけに平泉寺は僧兵集団として有名になっていく。

源平合戦の頃、延暦寺と敵対していた平氏に對抗するため源氏を支持。しかし、平泉寺の長吏(平泉寺のトップ)・有明が源義仲を裏切り、平氏が優勢に。倶利伽羅峠の戦い(一一八三年)で義仲が逆転勝利したが、白山に戦勝祈願をしていた義仲は「この戦は、わしの力で勝ったのではない」と平泉寺に藤島(現、福井市の一部)の社を寄進した。(後に頼朝没収? 延暦寺へ)

南北朝時代、足利尊氏ら北朝側の斯波高経(越前守護)が平泉寺に「助勢してくれ」と頼み、平泉寺は南朝から寝返り、新田義貞が藤島で戦死。(新田塚という地名がある。)

藤島の社は多くの年貢が入る平泉寺の財政基盤に。この頃、平泉寺は最盛期。社領九万石九万貫(一石収穫できる土地が一反)・社堂四十八社三十六堂六千の僧坊があった。

たと書かれている。

一向一揆により

平泉寺焼亡

室町時代後期、浄土真宗が農民に広がり各地で一向一揆が起こった。

朝倉義景は、織田信長に攻め込まれ、一乗谷を捨て一族の朝倉景鏡をたよって大野へ。平泉寺は情勢を見きわめて、信長に取り入り朝倉氏の援軍要請に応じず、景鏡にも裏切られ包囲された義景は自害した。(というわけで義景の墓は大野にある)

一五七四年石山本願寺の頭如が加賀越前の門徒に平泉寺と景鏡の討伐を命令。一揆の地元軍が村岡山に砦を築いたのに驚いて平泉寺の僧兵は攻め込んだ。その頃、一揆の決死隊は老僧ばかりで手薄の平泉寺の背後から放火。慌てて引き返そうとした僧兵や景鏡も一揆衆に討たれ、平泉寺は火の海に。



平泉寺

焼け跡からの再興

美濃に逃れていた顕海が九年後平泉寺の焼け跡に戻り、玄成院を再興し、禪定道の

再開につとめた。大野城主金森長近らは、再興を助け、天下をとった秀吉は、平泉寺を保護する「禁制」を出した。

一、兵はもちろん誰かれいわず乱暴狼藉を働いてはならぬ
一、放火を禁ずる
一、還住百姓を成敗したりその家を壊してはならぬ

秀吉

江戸時代、平泉寺衆徒は、自ら「平泉寺一山僧俗心得書」を作り、気を引き締めた。江戸上野の寛永寺(徳川家の菩提寺)の末寺に。福井藩主松平氏の保護を受けて、社殿などを再建した。

神仏分離

一八六八年の神仏分離令で平泉寺への寄進地はすべて没収され「平泉寺」の名を廃止。白山社の本社、拝殿、鳥居などは「白山神社」として残された。玄成院(賢聖院)の第二十一世院主・義章は還俗して神官になった。仙堂仙具は壊された。(玄成院は現在の白山神社社務所です)

また、白山山頂や白山麓の村々は石川県に属することになり、白山神社の総本山は、加賀の白山比咩神社となった。

知っている? とピン! とくる用語

平泉寺キーワード①

白山信仰



山には神が降りる。または、山そのものを神として崇める。立山が男の神に対して白山は女神である。12月〜4月頃はひととき白く神々しい。

平泉寺キーワード②

神仏分離令

明治政府が神道の国教化をすすめようと1868年に発令。神仏習合の寺院は寺号を廃止し、神社へ。また、「廃仏毀釈運動」が起こり全国で仏具、經典などが大量に廃棄された。

(白山平泉寺は、1574年の焼亡でたくさんの史料を失い、神仏分離で仏教色の建物などを失った)

平泉寺キーワード③

神仏習合

日本古来の神道と仏教が混合し、ひとつの信仰の形として作り直された現象。日本に仏教が伝わる以前から仏は飯の姿(神)で衆生を救済しているとする考え。



「我は伊勢冊尊なり ←(飯の姿) 今妙理大権現という」←(本来の姿)



白山平泉寺にまつわる伝説

あの東尋坊は平泉寺にあった?

東尋坊とは平安時代の終わり、平泉寺にいた僧の名前。あの断崖絶壁から突き落とされたことに由来する。⇒東尋坊井戸跡が残る。

源義経と弁慶が平泉寺に

立ち寄った? (山伏姿に変装して...)

兄・頼朝に追われ奥州・平泉へ逃れる時、平泉寺に寄った。正体がばれそうになった時

の弁慶と平泉寺の長吏とのやり取りが『義経記』にある。

⇒辻観音堂に宿泊したとされる。

平泉寺は能面作家の故郷

室町時代平泉寺の僧に三光坊という能面師(面打師)がいた。(日本六作のひとつ)近代能面作家の三家は(越前出家・近江井関家・大野出家)三光坊の弟子たちが始祖。⇒勝山市北谷町谷と村岡町津波の「お面さんまつり」の面は平泉寺にあったものらしい。

(参考資料)

- ・平泉寺史要 昭和編
- ・平泉寺のいわれ 改訂版
- ・白山国立公園昇格30周年記念 白山・平泉寺 自然と歴史
- ・歴史漫画 白山平泉寺物語

平成30年7月発行